

第49回農林水産祭

農林水産祭は、我が国の農林水産業、農山漁村の発展に貢献してきた方々を表彰するとともに、各地の産物や様々な活動、技術の研究・開発を普及する催しで、今年49回目を迎えました。

11月23日に開催された表彰行事の「農林水産祭式典」、それに先立つ12、13日の両日開催された普及行事の「実りのフェスティバル」の概要を紹介します。



あいさつする
鹿野農林水産大臣

【天皇杯】	
受賞者	協和木材(株)
受賞対象	産物(木材)
取組内容 (※特色)	高度な製材技術と流通合理化により地域材の安定供給を実現
<p>協和木材は、昭和28年に素材生産業として創業。38年から製材業に着手し、48年に株式会社化。</p> <p>福島県下最大の国産材専門製材工場を有し、平成21年度の原木消費量は約137千立方メートルと国内最大級であり、首都圏を中心として県内外へ多くの国産材を供給。</p> <p>※ 奥久慈八溝地域の森林資源をグループ内流通によりコストダウン供給。 ※ 材種による乾燥施設の使い分けなどにより低コストの乾燥材を生産 ※ 含水率やヤング率等を製材品に表示し、製品情報を積極的に提供</p>	



来場者で賑わう都道府県展示ブース

【林業の発展に貢献した方々を表彰】

農林水産祭式典は、11月23日、明治神宮会館において各界の代表者、中央・地方の

農林水産関係者、農林水産業者が多数出席し盛大に開催されました。

主催者を代表してあいさつに立った鹿野道彦農林水産大臣は、農林水産業が国民の食と環境、地域社会を支える重要な産業との認識を示した上で、守りから攻撃型の農林水産行政に転換する好機ととらえ、森林・林業の再生などの主要施策の着実な実施を目指す決意を表明しました。また、天皇杯等三賞受賞者に対するお祝いを述べるとともに、その功績を讃えました。

式典では、7部門にわたってそれぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞受賞者の表彰が行われ、林産部門では、天皇賞に協和木材株式会社(福島県埴町)、内閣総理大臣賞に大森三男氏(茨城県那珂市)、日本農林漁業振興会会長賞に増田清氏(愛媛県西予市)が受賞されました。また、むらづくり部門では、大野ケ原開拓組合(愛媛県西予市)に地区内のブナ林保護活動を含む取組が評価され、内閣総理大臣賞が贈られました。

【内閣総理大臣賞】	
受賞者	大森 三男 氏
受賞対象	技術・ほ場(苗ほ)
取組内容 (※特色)	少花粉スギや抵抗性マツなど多様な苗木生産による安定経営の実現
<p>大森氏は、高校卒業と同時に家業の苗木生産に従事し、以後45年にわたり専業で苗木を生産。2haの苗畑で主にスギ、ヒノキ等の林業用苗木を年間20~30万本程度生産。労働力は、自家労働を主に、床替えや出荷など労務が集中する時期には臨時雇用で確保。</p> <p>※ 従来の苗木に加え、少花粉スギや松くい虫抵抗性マツ、広葉樹など多様な苗木を生産。少花粉スギは茨城県目標の2割に相当する6万本を生産。 ※ 苗木生産に必要な機械を独自改良し、技術を進化。</p>	

【日本農林漁業振興会会長賞】	
受賞者	増田 清 氏
受賞対象	経営(林業)
取組内容 (※特色)	先進的な林業経営と担い手育成により地域林業の振興に貢献
<p>増田氏は、平成7年に設立した愛媛県認定林業事業体である「株式会社エフシー」の取締役として、設立当初から担い手育成に力を入れて取り組むとともに、10年から地元城川町林業経営研究会会長として、16年からは西予市林業研究グループ会長として、毎年、林業後継者や青少年への林業普及活動を積極的に推進し、地域林業の振興に貢献。</p> <p>約200haの自己所有林では、健全な姿で次代に引き継ごうと間伐や作業道の開設、さらには森林GISを活用した森林情報のデータベース化を行っており、熱心な取組は地域林業の模範。</p> <p>※ 積極的に林内路網(路網密度280m/ha)を整備し、搬出間伐を中心とした低コスト林業を推進。 ※ 森林GISを活用した森林情報のデータベース化を推進。 ※ 若手林業技術者の研修フィールドを提供するなど担い手育成に中心的役割。</p>	



政府特別展示林野庁のブース

【実りのフェスティバル 盛況に】

11月12日、13日の両日、東京国際展示場(東京ビックサイト)において、「実りのフェスティバル」が開催されました。開場に先立ち、秋篠宮同妃両殿下が来場され、会場をご視察されました。政府特別展示や都道府県出展の地域農林水産展などのコーナーが設けられ、2日間で約4万6千人の来場者で賑わいました。